

No Challenge, No Future
Hidehiko Oka



平成 30 年度（2018 年度）決算から見る江別市立病院の経営状況

江別市議会議員 岡 英彦

□ 赤字額 11 億 4134 万円

平成 30 年度（2018 年度）の市立病院の経営は、前年度より内科医が 4 名少ない体制でスタートし、年度途中に更に 3 名が退職したことにより内科の診療体制が縮小、結果として診療収益が大きく減少しました。

収支のバランスが大きく崩れたため赤字額は 11 億 4134 万円となり、一般会計からの繰入金 13 億 8600 万円を考慮すると、事実上、過去最大の赤字額と言えるものです。累積の赤字額は 101 億 1024 万円となり遂に 100 億円の大台を突破してしまいました。

運転資金の不足により資金繰りのための一時借入金は年度末に 20 億円に達し、一時借入金返済のため 6 億円を一般会計から緊急に貸し付ける事態となりました。

監査委員の審査意見書においても、「黒字化には相当な困難が見込まれる」、「病院の実情を踏まえた抜本的な取り組みが求められる」、「必要な検討を迅速かつ着実に進めていくことを望む」という厳しい意見が記載されており、抜本的な改革が待ったなしの状況になっています。

□ なぜ巨額の赤字となるのか？

収入と支出のバランスが崩れているため赤字となります。

収入の基本は診療収益と一般会計からの繰入金です。病院の診療は医師がいないと成り立たないため、診療収益には医師の数に大きく影響されます。平成 30 年度の医師数は常勤換算で 45.5 人となっており、診療収益の計画値を達成するに 10 人以上の医師が不足している計算になります。

一方、支出の内訳は人件費、材料費、減価償却費、その他の経費などになります。医療は人件費の割合が高くなる傾向がありますが、平成 30 年度の市立病院の人件費割合は 65.7%となっており、同規模の公立病院と比較しても人件費割合が高くなっています（平成 29 年度の類似平均は 56.9%）。これは現在の 339 床（50 床は休止中）という病院規模を維持するための職員を配置していることによるものです。

結果として、医師は不足しているが、病院全体の職員は多いということになってしまっており、収支のバランスが崩れているため、赤字額が拡大していると言えます。

□ 議会での病院決算の審査状況

議会の決算特別委員会での病院決算の審査において以下のような質疑が行われています

○医師確保の取り組みの状況は？

院長を中心に北大や札幌医大にお願いを続けたほか、民間病院への依頼や人材派遣会社への登録を行った。大学医局との関係において医師派遣を受けたいが、派遣は難しいと聞いている。

○予算のあり方に不備があるのではないかな？

当初予算から10億円以上赤字額が増えるなど予算との乖離が大きい点については、当初から目標予算として立てているところがあり、また、想定外の年度途中での医師の退職などがあったが、今後についてはより現実的な予算のあり方を検討したい。

○看護部門職員数が過剰なのではないかな？

同規模の公立病院と比較して看護部門職員数が多いことは承知しているが、育休が増えている、フルタイム働けない職員も多くその分職員を増やしているなどの理由から過剰ではないとの認識である。

○救急患者受け入れ状況は？

内科医師の不足により、前年度からおよそ半数の受け入れ数となっており、救急医療という市立病院の役割を十分に果たせない状態となっている。

○抜本的な改革の取り組みは？

監査委員からも指摘されている抜本的な取り組みへの対応については、「江別市立病院の役割とあり方を検討する委員会」の答申を待ち、長期的に安定を確立したい。公立病院の性格上、1～2年の短期では体制を変えられない。

○市長としての経営責任の取り方は？

いかに経営改善を図るかに尽きると考えている。市民への謝罪については今後検討したい、また、自らの給与削減については総合的に判断したい。

本会議の採決では13:10で決算は認定となりました。岡の所属する会派「えべつ黎明の会」は不認定の立場を取りました。

□ 令和元年度（2019年度）の状況

令和元年度（2019年度）の4月から9月までの診療収益は約22億円となっており、計画より約7.8億円のマイナス、昨年度実績より約3億円のマイナスとなっています。

運転資金不足を補うための一時借入金額は10月末時点で約19.4億円となっており、年度末では26億円から28億円までに増えると試算されます。昨年度と同様の手当を行うと仮定すると、一般会計から10億円以上の貸付が必要となる計算になります。

昨年度、一般会計からの貸付の6億円は、使途の定めのない貯金である財政調整基金と基本財産基金を利用しましたが、基金の残高は約20億円となっており、今後更に基金を大きく減らす可能性も出てきています。

このような状況を受けて、来年度の予算編成方針に対する市長からの説明として、「財政調整基金などの余裕がなく、市立病院の対応は事業の縮減で捻出しなければならない。現状は非常に厳しい。」と述べ、予算要求の10%削減を求めたと2019年10月8日北海道新聞江別面にて報道されています。

これまで一般会計から市立病院の運転資金不足への支援は、貯金である基金で行っていたため問題が見えにくくなっていた面がありますが、いよいよ予算削減により市民サービスに影響が出る可能性があります。

今後の抜本的な取り組みのために、8月に有識者と市民公募委員からなる「江別市立病院の役割とあり方を検討する委員会」が設置され議論が続けられていますが、来年2月に予定されている答申の内容がどのようなものになるのか、また、提言された内容を確実に実行し経営を改善できるのか予断を許さない状況になっています。

編集・発行 岡 英彦

〒069-0811 江別市錦町 2-3-102

電話：011-384-2705 FAX：050-3457-5095

メール：info@ebet.jp

ブログ：www.ebet.jp